

働く人々のメンタルヘルスに関する実証分析

神戸大学大学院経済学研究科博士後期課程修了

中野あい

研究報告要旨

メンタルヘルスに関する実証分析として、医学・保健学分野における疫学研究だけでなく、経済学分野においても研究が進められている。本稿では、現在のメンタルヘルス（こころの健康状態）の規定要因を明らかにするだけでなく、現在のメンタルヘルスと 1 時点前のメンタルヘルスの関係について 実証分析を行った。分析対象を男女に分け、就業形態別・子どもの有無別に、過去からの影響要因の大きさを推計した。

現在のメンタルヘルスと 1 期前のメンタルヘルスの関係について、係数が大きい方が心の状態の変動が大きい（過去からの影響が低い）といえるが、実証分析の結果（OLS 推計）、無業者のほうが就業者に比べて係数が大きく、子どもがいない方が子どもがいるよりも、係数が大きいことが示された。これらの結果から、働いている就業者の方が無業者の場合よりも、子育てをしている方が子育てをしていないよりも、こころの健康状態の過去からの依存性が低く、こころの健康状態の安定度が高いと考えられる。